
家庭教師ヒットマン！リボーン ~ 死半館編 ~

kana0221

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家庭教師ヒットマン！リボーン 〔死半館編〕

【Nコード】

N9112E

【作者名】

k a n a o 2 2 1

【あらすじ】

このお話は未来編が終わって1ヶ月後のお話です！新たな敵と戦うツナ達・・・このお話のキーワードになる新たな仲間・・・気になる方は、Let”GO!!

標的 1

く死半館編く

目を開けると、見知らぬ場所にいた。

「・・・何だ？・・・ここは・・・一体・
・何処なんだろう・・・。」

真つ暗な闇に
包まれた大きな世界、まるでブラックホールの中にいるみたいだっ
た。

た。

・・・怖い・・・ツナは真っ先に、そう思っ

けしかないみたいだからだ。

まるで、この世界に自分だ

「・・・夢なのか？・・・夢なら早く・・・早く覚めてくれっ！」

その時だった

「・・・・・・・・けて・・・・・・・・。。。」

「えっ!？」

ツナは、かすかだが誰かの声を聞いた。

すけて・・・助け・・・て・・・。

「・・・

その声は弱弱しく、とても小さな声だった。

「・・・あの人・・・を・・・止めて・・・。」

「あの人!?。」

「・・・・・・・・けて・・・・・・・・」

その声は、だんだんと小さくなり聞こえなくなった。

声のトーンからして女の子だった。

「・・・・・・・・一体・・・何だったんだろう・・・・・・・・」

がたつたとき、真っ暗だった世界が揺れだした。

それから数分

「うわっ！！何なんだ！！。」

まると黒い津波が押し寄せてきた。

揺れが、おさ

「ヒーーーーっ！！！」

くれえーーーーっ！！！」

「誰か助けて

ツナは黒い津波に飲み込まれそうになった、そのとき見覚えのある声がした。

「10代目っ！！大丈夫ですか！？」

目を開けると、そこには心配そうな顔をしている獄寺隼人がいた。

ツナは何が、おきたのか分からずボーとしていた。

ったんだ・・・良かったあ・・・

やっぱり夢だ

あ
||
||
||
||
!?
。」

「
っ
っ
っ
て、
どうして獄寺君が

ツナは獄寺が居る事に驚いた。

り前のことだ。

それは誰だって驚くのは当た

寝てる時に友達

がいたら普通は驚く事。

「10代目！良かったあ・・・！大丈夫ですか！？ひどくうなされていましたが・・・」

「・・・えっ・・・う

ん・・・大丈夫だけど・・・」

ツナは夢の事を思い出した。

あの夢の中で聞こえた女の子の

声が気になっていた。

ただの夢じゃな

いように思えたきたのだ。

あの

女の子・・・何かを俺に訴えてきたみたいだった・・・

・・・何なんだろう・・・

標的1（後書き）

どうでしょうか！？一生懸命にやりました！！感想などありましたらメールください！

標的
2

標的
2

標的
2

「っど・・・どうして、獄寺君がいるの!?!」

獄寺は、不思議そうにツナを見た。

「えっ・・・リボンさんから聞いてないんスカ?」

「・・・えっ・・・リボーン!？」

ツナは嫌な予感がした。

「その話は、俺がすんぞ」

イアである赤ん坊・・・

その声は、愛らしい体型とは裏腹にマフ

リボーンの声だった。

「リボーン!!」

「お前の仕業だな！！どうゆう事だ？説明しろ！」

「ツナ、まず周りを見てみる」

リボーンが、そう言うとツナは仕方なく周りを見た。

「・・・周り？・・・っええ！！！」

見た途端、ある事に気が付いた。
ツナは周りを

昨日、自分の部屋で寝たはずなのに・・・

今ツナは座席に座っていた。

それに、窓をみるといつも見えていた風景とは、まったく違って雲が見えている。

一番後ろに

は険しい顔をしたSPらしき人が何人かいた。

そう、ツナが今乗って

いるのは飛行機である。

ツナは目を丸くした。

・・・信じられない・・・

リボーンは目を丸くしたツナに、言った。

「しょうがねえから、簡単に説明すんぞ」

「簡単ってなんだよ！！ちゃんと説明しろよっ！」

ツナはつつこんだ。

「だって、だって面倒くさいんだもん」

「そんな顔しても無駄だからな！」

またツナはつつこんだ。

「・・・っち・・・じゃあ説明すんぞ」

「今、舌打ちしたよな！？感じ悪いぞ！」

またまたツナはつつこんだ。

「いちいち、うるせーぞお前」

「ボスなる者は細かい事にきにしねーんだぞ」

「いつ俺がボスになるって言ったんだよ!!」

「大体お前のせいだろ!」

またまたまたツナはつつこんだ。

「まあまあ、落ち着こつて。ツナ」

この声は……

「山本!？」

ツナはまさか……と思い後ろを向いた。

予想は的中した。

武だった。

あいかわらず背が高く、いつも笑っている・・・山本

「よお！ツナ」

ツナに話しかけた途端、

「おいっ！！てめえ・・・何でここに居やがる！？」

獄寺は怖い顔をして山本を睨んでいる。

そんな獄寺の顔を見ても山本は何とも思わない。

何故かと言うと、理由は一つ・・・天然・・・だからだ。

「よっ！獄寺」

「よっ！獄寺じゃねえーよ！なんでお前がいんだよ！！」

獄寺は山本に怒鳴った。

「まあまあ・・・落ち着こうよ。二人とも・・・一旦、整理してみよう」

よー！ー！
()

(本当は、こっちが聞きたい

「おっと、ここで標的3に続くぞ!! 作者が限界みたいだ」

[illegible]「作者
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
つ
! !
」

作者↓本当に申し訳ありません。(o+ おやすみ。+
(o)。(o)。(p、●ノ。+*。

標的3は9月10日までに投稿シマス

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9112e/>

家庭教師ヒットマン！リボーン ～死半館編～

2010年10月9日12時33分発行